

認知症研究×モーターズ ポーツで取り組みを加速

山本左近の活動はこちら



HP YouTube Instagram Facebook Twitter

今年、英国を代表する元F1ドライバーであるサー・ジャック・スチュアート氏が、認知症研究を加速させるための「レース・アゲインスト・デメンシア(以下RAD)」という団体を立ち上げました。実は私が携わるさわらび会も認知症研究を長年行っています。そこで今回は認知症について解説します。

【認知症のいま】

日本の認知症患者数は増加傾向。65歳以上の高齢者のうち認知症と診断された人は約443万人、有病率は12.3%と推計。軽度認知障害(MCI)の人は約558万人と推計。合計1000万人以上で、高齢者の約3.6人に1人が認知症またはその予備群とされています。世界でも約5500万人に影響があるとされています。

【認知症治療のいま】

現在、世界を見渡してもアルツハイマー型認知症に代表される認知症を治療できる薬はありません。他方で、一昨年は初期の認知症の進行を直接抑制する疾患修飾薬が使用可能となり、大きな変革の年でした。今後更

なる治療薬の開発により、発症予防や根治ができる日がくる、そんな希望がもたらされたのではないかと思います。

【認知症研究×モーターズポーツ】

F1日本グランプリ開催直前の4月2日(水)、東京で初めてRADのランチ・オークションが開催されました。若手科学者サポートのための資金調達を行うチャリティオークションです。私もご招待いただきましたが、**モーターズポーツと認知症の両軸**は、まさに私のこれまでのキャリアがピタッと合わさるものであり、大変光栄なことでした。

RADの現在の取り組みを1つご紹介します。認知症治療薬の研究開発に、F1の日々進化していく技術開発の世界観を応用できると考え、認知症研究者たちを一定期間主要なF1チームに協働させるなどしています。研究者に、F1の結果重視の競争社会に触れてもらうことで、新たなシナジーを生み出そうとしているのです。

このようなモーターズポーツのフィルターを通じた認知症研究への取組みは、その技術活用

も含めて様々な可能性を秘めています。私もこれまでのキャリアと経験を活かし積極的に関わっていきたくと考えています。

【認知症のこれから】

急速な高齢化と認知症患者の増加を背景に2023年認知症基本法が成立し、私も議論の段階からかかわりました。認知症基本法は、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、国や地方公共団体の責務、認知症研究の推進などを規定。認知症の人を含めたすべての国民がその個性と能力を十分に発揮し、相互に支え合いながら共生する活力ある社会の実現の推進を目的としています。

今まさに、認知症に関連してお困りごとがある方もいらっしゃると思います。様々な取組みを通じ、すべての人が将来に希望が持てる豊かな共生社会を実現するため引き続き、尽力してまいります。

前衆議院議員

山本左近



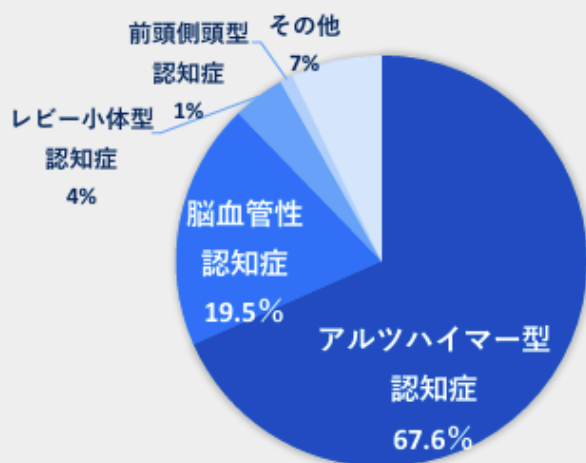
不屈の
三河武士

《やまと・さこん》

愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。42歳。豊橋南高校卒業、南山大学。11歳、レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバーデビュー。30歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙(比例代表)に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙(東海ブロック比例代表)に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼働を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙に自民党比例代表で2期目に立候補するも落選し現在に至る。英語、スペイン語を話すマルチリンガル。

「認知症」とは、様々な病気により、脳の神経細胞の働きが徐々に変化し、認知機能（記憶、判断力など）が低下して、社会生活に支障を来した状態をいいます。

認知症の主な種類



アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症などに分類されます。

アルツハイマー型認知症が全体の6割以上を占めています。

* 診察や様々な検査を行い、認知症の原因を推定し治療を行います。死亡後に病理解剖を行い、原因を特定することが、認知症研究において非常に重要です。



地域包括支援センター (相談窓口)



「地域包括支援センター」は、高齢者とその後ご家族等が介護・医療・保健・福祉等の生活上の困りごとについて相談することができる『高齢者の総合相談窓口』

認知症予防には？

認知症は、現時点で確実に予防する方法はありませんが、生活習慣病と認知症との関連性を示す研究は多くあります。普段の生活習慣に気をつけることで予防することができると言われておりますので、**食事、運動、外出の3つの項目**に注意して生活しましょう。

食事/栄養

よく食べよう

- ・栄養状態の悪化が認知機能の低下に繋がります
- ・バランスの良い食事を心がけましょう
- ・口腔内を清潔にし、定期的に歯科検診を

運動

よく歩こう

- ・運動は体だけでなく、脳の活性化にも有効
- ・無理のない範囲で、30分以上のウォーキング（有酸素運動）を週2、3回程度行う

社会参加

出かけましょう

- ・外出する機会が多いほど、運動機能が保たれます
- ・趣味や生きがいを見つけ、交流すること、ボランティア活動などに参加

